

小学校高学年の部

優秀賞

## 私のふるさと、由布市

由布市立石城小学校 6年

ジャヤゴダ ディミシ ミドリ

Jayagoda Dimishi Midori



ふるさととは、一般的に、「その人が、生まれ育った土地で、なじみぶかい場所。」だといわれています。しかし、私はちがいます。私にとってふるさととは、「自分にとって住みやすい場所」だと考えます。

私は、2歳の時に、親の仕事の関係で由布市に移住してきました。それから、3歳の時に母と二人きりで暮らすようになり、母は、「異国で私一人でこんなにも小さい3歳の子をどうやって育てていけばいいの?」という不安な気持ちでいっぱいだったそうです。そんな時に支えてくれたのが由布市でした。今でも、いろいろな面で支援をしてくれています。そして、私たちが由布市に移住してきてから今もなお異国人ということを感じさせないくらい由布市は平等で温かみのある市だと感じています。

由布市は、母と私にとって命の恩人といっても過言ではありません。そして春には、桜の森公園での花見、夏には、由布川峡谷や名水の滝、秋には、金鱗湖周辺の紅葉や庄内のみずみずしい梨、冬には、真っ白な由布岳や温かい温泉など、由布市にはそれぞれの季節に魅力的な物が沢山あります。母と私は、ふるさとの春夏秋冬を味わいながら今幸せに生きています。

そんな由布市に恩返しができないか、私はずっと思っていました。そんな思いを持ったまま、6年生に進級し、一学期の半分以上が過ぎようとしたある日、担任の先生から、「『由布市子ども未来議会』に、全校を代表して、6年生から二人参加します。」という話を聞きました。突然の話だったので、私は驚きが強かったけれど、「これに出たら由布市に何か恩返しができるのでは」と思い、「絶対議会に出るぞ!」と心の中で決めました。

次の日から早速提案文章の作成に入りました。6年生全員で、学校、地域、由布市全体の三つの項目に分けて、私たちが感じる問題点を出し合いました。その結果、石城小学校からは、「衛生的な理科室・家庭科室であるために」を提案することにしました。

由布市への恩返しという気持ちと、学校代表として出るという責任が強かったので、学校や家で議会の流れの練習を何度もしました。練習したかいがあり、本番はノーミスで終えることができました。周りの方からも、「立派でしたよ。」と言ってもらえました。

私は小学生なので、まだ大きなことはできませんが、小学生として、お世話になっている由布市に少しでも恩返しができたのではないかと考えています。これからもいろいろな場面で由布市に恩返しができるように挑戦します。

「ありがとう私のふるさと、由布市」